



# ひまわりノ畑



教育目標 思索・和敬・剛健  
R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう

<http://www.kivose.ed.jp/kivosedaijibutuu/ueakkou/index.htm>

さつき

## 皐月は、田植えの季節、成長の時

大型連休がある5月は、月日の流れが速く、中間考査が終わると、はやくも月の後半に入りました。現在、正門や生徒玄関付近に植えられているサツキが咲き始め、もうすぐ満開を迎えそうです。

4月には「卯月（うづき）」、5月には「皐月（さつき）」という別称があります。名前の由来は、植物に関係があるようです。5月は、田植えの季節であることから、稲の苗（なえ）のことを意味する「早苗（さなえ）」から「早苗月（さなえつき）」と呼ばれ、それが段々と、さなつき、さえつきと略されて、「さつき」と短く呼ばれるようになり、稲という意味の「皐（さ）」に置き換わって、「皐月（さつき）」となったと言われています。（諸説ある中の一つです。）今では五月と書いて「さつき」とも読みます。



五中正門の「さつき」5分咲き 5/19

サツキは、盆栽などに使われるツツジ科の樹木で、ツツジが4～5月に花が咲くのにに対して、やや遅れて、ツツジより一回り小さい花を5～6月に咲かせるので、五月（サツキ）と呼ばれるようになったそうです。

5月は新緑の季節です。寒い冬が過ぎ、暖かくなり、木々が若々しい葉をつけて、ぐんぐん伸びる季節です。1年で数センチしか身長が伸びない人間と比べると、数日で数センチも背丈が伸びる植物の「生長」は驚くべき速さです。しかし人は、身体の「成長」は少しずつですが、心の「成長」は、ひとつの経験やきっかけで、驚くほど、飛躍的に伸びる時があります。進学や進級もその一つのきっかけです。



4月の始業式・入学式から、ひと月半ですが、3年生の皆さんは学校を代表する凛々しい顔になり、2年生は中学生という風格をまとうようになり、1年生は入学当初の緊張がやわらぎ、学校生活に馴染んできたように顔がほころび、ぐいぐいと成長しているように感じます。

すこし歩みの早かった4月が終わり、中間考査も終わった5月は、すこし落ち着いたペースで学校生活をおくりましょう。運動会もグイッと成長するきっかけとなる行事です。

5月（さつき）は、実り多き秋へ向け、田に苗を植える季節です。



### ●清瀬市立中学校・吹奏楽部「合同講習会」開催！ 5月17日（土）

清瀬市教育委員会では、子供たちにとって魅力あるスポーツ・文化芸術活動の機会を確保するための部活動改革を進めており、その取り組みの一つとして、昨年度に続き、市内中学校吹奏楽部に所属する生徒を対象として、本年度も演奏家として活動されている方々を講師としてお招きして、合同講習会を開催しています。

第1回は、ブリッツフィルハーモニックウインズ楽団で、ユーフォニアムの演奏者として活動し、音楽大学で講師もされている濱岡雪乃氏を講師としてお招きし、清中・三中・四中・五中で、同じ楽器を担当している生徒8名がご指導を受けました。生徒たちには、とても有意義な経験となりました。今後も6月～9月にかけて、クラリネット、トランペット、サクソフォーンの講習会を予定しています。楽しみですね！



# 青春全開！ ～勝利へのスタートダッシュ一撃奪取～

中間考査が終わった翌日、5月16日（金）の6時間目には、早速、最初の全体練習（開会式の練習）を行いました。事前に各学年練習で、式の内容や流れ、行進や準備体操など一通りの説明は受けていましたが、3つの学年が介すると、やはり、想定通りにいかないものです。



実行委員会が掲げてくれた今年のスローガンは、「青春全開！～勝利へのスタートダッシュ～」です。まさに、運動会らしい4文字と、すべての学級の目標に合うサブタイトルですね。

この2週間は優勝や勝利といった同じ目標をクラスの仲間と持ち、それぞれ異なる能力を持つクラスの仲間と、知恵を出し合い、力を出し合い、協力して、試して、一番しっかりとする戦略や方法を探しだす取り組みが大切になりますね。

これは、企業が開発プロジェクトなどを進めるためのPDCAサイクルという手法と同じですね。これは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の4つのステップを繰り返して、よりよく改善を進める方法ですが、ここで一番大切なのが、仲間とのコミュニケーションです。

学校行事は、当日だけでなく、準備段階から、当日までの練習も、学びの場なのです。

\*\*\*\*\*

## ■開墾作業をありがとうございます。

### ～ ボランティアの皆さんによる開拓史の始まり

### 学校支援本部 ～

学校の敷地が市境に接している本校は、隣の新座市にお住まいの地主の方のご厚意で、隣接地を利用させて頂き、主に1年生の総合的な学習の時間に「ひまわり農園」として、地域の方々のご指導とご協力を受けながら、農業活動体験の場として活用しています。そして今回、農園の隣で、避難所のマンホールトイレを設置など、市内学校の施設整備の際に出てきた土砂置き場として利用している土地についても、地域の皆様の手により、活用の試みが始まりました。



しばらくの間、人が立ち入っていなかったため、木々が生い茂る状態になっていましたが、学校支援本部の方々が中心となり、保護者や地域のボランティアの皆さんのご協力を受けながら、昨年度より開墾作業が始まりました。まずは、業者に剪定してもらった大木の後始末や、実生の木々の伐採、草刈り作業などを行って来ています。先日は、6月中旬なみの気温の中、スコップを使って、大きな切り株の根おこし作業をして下さっていました。その姿は、とても頼もしく、そして何より、そのボランティア作業を楽しんでおられるように思えました。ありがとうございます。



ボランティアの皆さんと、「さて、開いた土地で、何をしましょうか？」

「何ができるかな？」「地域の方の憩いの場？」「焚火ができればいいですね」「さつま芋を育てて、十小の児童と芋掘りとかは？」などと、この荒地の未来像について話をするのが、とても楽しく、いずれこの場所が、地域の方々の発信地となり、子供も大人も集まり、そこに、中学生も、発信する側として関わられるようになれば、素敵だと感じました。

現実的には、盛り土の整地などの難題もあり、何年もかかるような取組になると思いますが、それはそれで、年代を超えて地域の方々と繋がっていく楽しさがあります。

ゆっくりと、息の長い活動が始まっている五中は、地域に支えられている素敵な学校です。